

平成29年ホヤ類調査結果速報 No. 2

平成29年9月1日

北海道立総合研究機構函館水産試験場

※この速報は函館水試HPでも見ることができます。

【アドレス：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>】

8月23日に渡島管内八雲地区において、耳吊ホタテガイ付着物および浮遊幼生の調査を行いました。

結果概要

- 耳吊りホタテガイ上のヨーロッパザラボヤの付着数が増加しています（図1）。平均サイズは8.6mmで、肉眼で見える個体も目立ち始めました（図2）。
- 付着数はホタテガイ1枚あたり38.9個体で（表1）、過去5ヶ年の平均と比較するとやや少ないです（図3）。
- ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生（図4-1）が確認されています（図4-2）。引き続き、新たな個体が付着する可能性があります。
- ヨーロッパザラボヤの付着数はやや少ない状況です。9月以降、付着個体数は減少に転じると見込まれますが、出荷時期（12～4月）にホタテガイ1枚あたり10個体残っているだけでも、ホタテガイを上回る重量となり、成長にも悪影響が出ます。引き続き、今後の調査結果を注視下さい。

図1 ホタテガイに付着するヨーロッパザラボヤ稚ボヤ 平成29年8月23日 八雲地区



問い合わせ先：函館水産試験場調査研究部 金森・吉田
TEL：0138-83-2893 FAX：0138-83-2849

1：耳吊りホタテ貝付着物調査

〔調査月日：8月23日、調査場所：八雲沖、採取数：上中下層 各5枚〕

ホタテガイを上層、中層、下層から5枚ずつ抽出し、肉眼及び実体顕微鏡を用いて、付着物を調査しました。ヨーロッパザラボヤの付着が確認されました（図1）。ヨーロッパザラボヤの平均付着個体数はホタテガイ1枚あたり38.9個体、平均サイズは8.6mmです（図1、2）。過去5ヶ年の同時期のデータと比較すると、平成29年はやや少ない状況です。付着重量も6.9gと低い数値ですが、今後、付着個体の成長にともない、増加していくと考えられます。（図3）。

表1 付着生物調査結果（八雲地区：平成29年8月23日）

ホタテガイ1枚あたり平均付着数量	上層	中層	下層	地区平均
全付着物重量	34.5g	13.6g	9.0g	19.0g
ヨーロッパザラボヤ	13.9g	4.8g	2.1g	6.9g
その他	20.6g	8.8g	7.0g	12.1g
ヨーロッパザラボヤ個体数	31.8個体	59.4個体	25.6個体	38.9個体
平成28年8月（H28.8.11）の個体数	80.6個体	129.2個体	134.8個体	114.9個体
平成27年8月（H27.9.1）の個体数	47.4個体	78.4個体	103.2個体	76.3個体
平成26年8月（H26.8.21）の個体数	56.8個体	57.8個体	57.0個体	57.2個体

図2 ヨーロッパザラボヤのサイズ組成（八雲地区：平成29年6～8月）

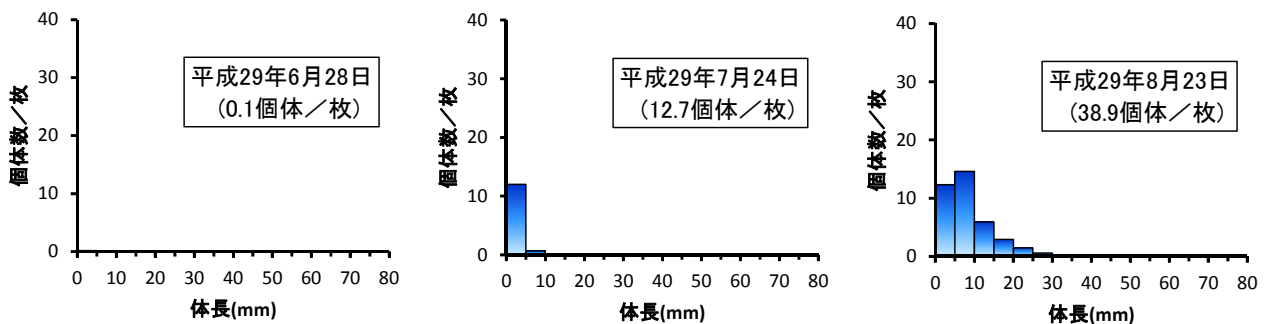
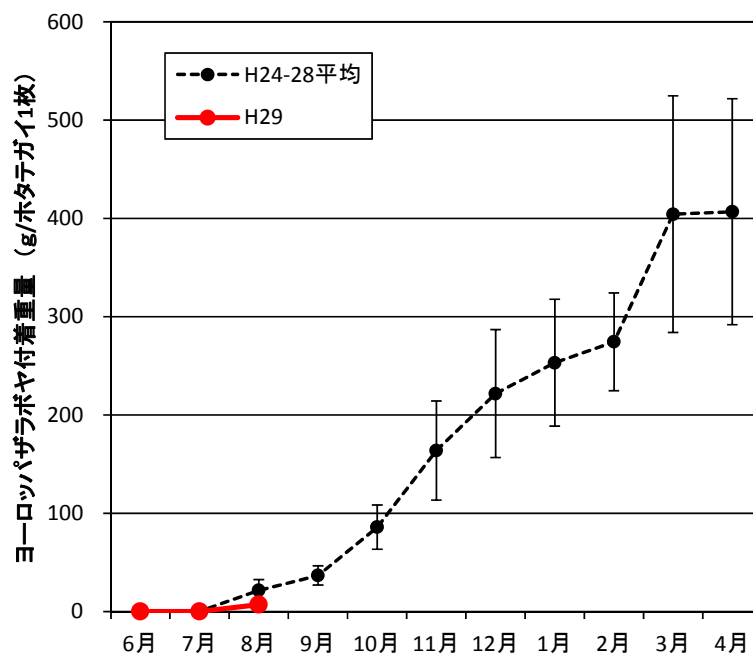
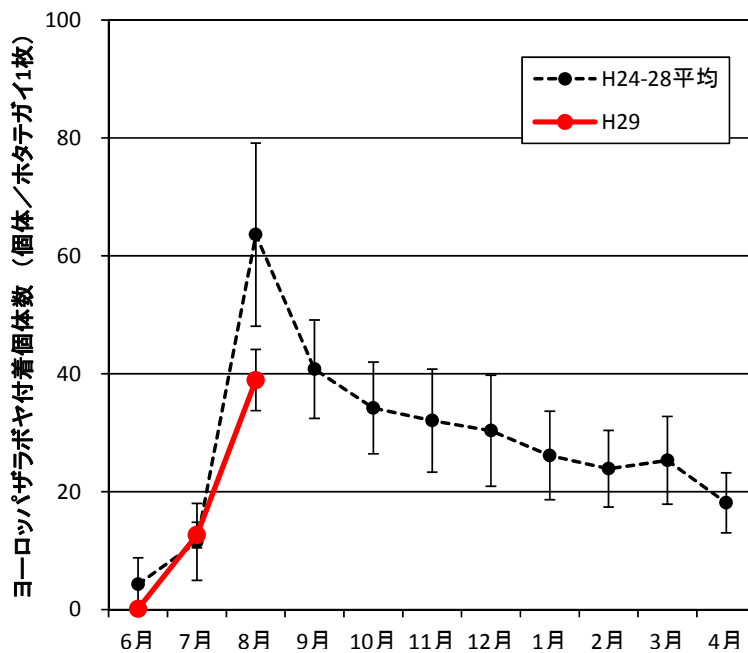


図3 ヨーロッパザラボヤの付着量（八雲地区）



上：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着個体数の季節変化

下：ホタテガイ上のヨーロッパザラボヤ付着重量の季節変化

各月のデータは全層（上層、中層、下層）の平均値で示しています（縦棒は標準誤差）。過去5ヶ年（H24～28年）のデータでは、ヨーロッパザラボヤのホタテガイへの付着は7～8月が最も多くなっています。付着重量は10月以降、急激に増加します。

2：浮遊幼生調査結果

[調査月日：平成 29 年 8 月 23 日、調査場所：八雲沖水深 17m、水深 32m、水深 40m]

ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生（図 4-1）は 3 地点の平均で海水 1t あたり 14.0 個体でした（図 4-2）。先月（1.4 個体）と比較して増加しました。引き続き、新たな個体がホタテガイに付着する可能性があります。

図 4-1. ヨーロッパザラボヤ幼生の形態



水温 20℃の条件で、ヨーロッパザラボヤの卵は受精後、約 14 時間で孵化します。図 4-1 は 20℃条件で受精から 22 時間後のヨーロッパザラボヤの浮遊幼生です。ヨーロッパザラボヤの浮遊幼生期間は短く、室内実験では水温 20℃の条件で、孵化から 6 時間後（受精から 20 時間後）には、基質に付着して変態を始める個体が見られます。

図 4-2. ホヤ幼生出現状況の経年比較（八雲地区）

